

神楽岡公園（旭川市）

富川 徹

旭川で時間があれば足を運んでみるのが、上川神社に隣接してある神楽岡公園である。旭川市内の南方 1.5km 程の忠別川を臨んだ丘陵地で神社用地を含め約 50 ha の面積を有し、都市公園として古くから市民に親まれている。



神楽岡公園（旭川市）

子供の頃はこの辺りで育ち、年始の神社参りから冬は崖スキー、春はカエル、サソショウウオの卵採り、夏はセミ、クワガタ、チョ

ウの昆虫採集やトジョウ、ヤツメなどの魚採り、そして秋は木の実、紅葉収集、またキャンプやクラブ活動のトレーニング場として四季を通じたフィールドアドベンチャーとの付き合いは思い起せば限りない。私にとっての自然・冒険の心を養われた郷里である。

しかし、近年この周辺は市の用途地域として宅地開発が進み、特に忠別川は河川改修の整備で様相も変わった。訪ずれるたびに市街地の中にとり残された緑の孤島に化しつつあることに空しさも感じるが、懐かしさが先立ってか無心に鳥を探したくなる。

公園地と丘陵地の林相は下刈りなどの手が加えられているものの、概念維持され、ミズナラ、カシワ、ハルニレ、オニグルミ、カツラなどの広葉樹林であり、神社のトドマツが見事な大径木になったことには驚く。春には花見客で賑わうエゾヤマザクラの林と中央の広場、麓には大雪山連峰から注ぐ忠別川、その川沿いには多少にもヤナギの群生が残存しており、市街地にあっては森林、河川環境ともに比較的自然が保たれているといえよう。

思えばカラスの巣に石を投げ入れ数羽のカラスに糞爆弾を落されたことや、ムクドリ（桜鳥）の巣穴に手を入れ持ち遊んだことなど、今考えれば悪事ばかりなのには反省させられるが、昔からカラスには好適な地となっているようだ。

通常、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジウカラなどは

気軽に逢える仲間で、春から夏にかけてはカッコウ、アカハラ、クロツグミ、センダイムシクイ、オオルリ、アオジが林内で美しい声を聞かせてくれる。また聞き耳を立てればヤマゲラ、アカゲラのドラミングの音が響き、川沿いに出ればトビ、チゴハヤブサの飛翔も見られる。林内が静まりかける秋から冬では慌しそうに活動するカラ類の混群やキツツキ類、ヒヨドリ、カケス、ウソ、ツグミなどを窺うことができ、旭川の鳥とされているキレンジャクの群れにも出逢える。川の浅瀬の岸ではカルガモ、コガモなどの水鳥の姿も観察でき、あわよくばオジロワシも出現する。

身近かな自然はバードウォッチングには格好の地であると同時に、神楽岡公園一帯の位置環境が渡りや移動する鳥の経路として休息・採餌の場になっていることは請け合いに興味ある地でもある。